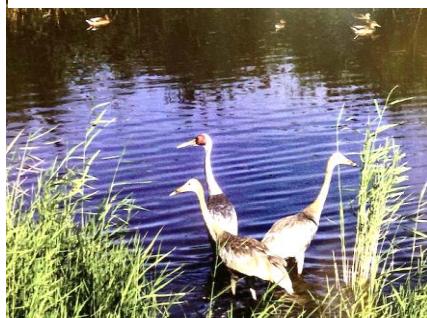




出水麓名物牛車



モンゴルのマナヅル(WWF)



池田断層

山川砂蒸し[砂湯里]の横に広がる、池田湖の爆発で出来た巨大な断層。
断崖の上には[たまで箱温泉]がある。

NPO法人かごしま新発見伝塾
理事長 今井俊子

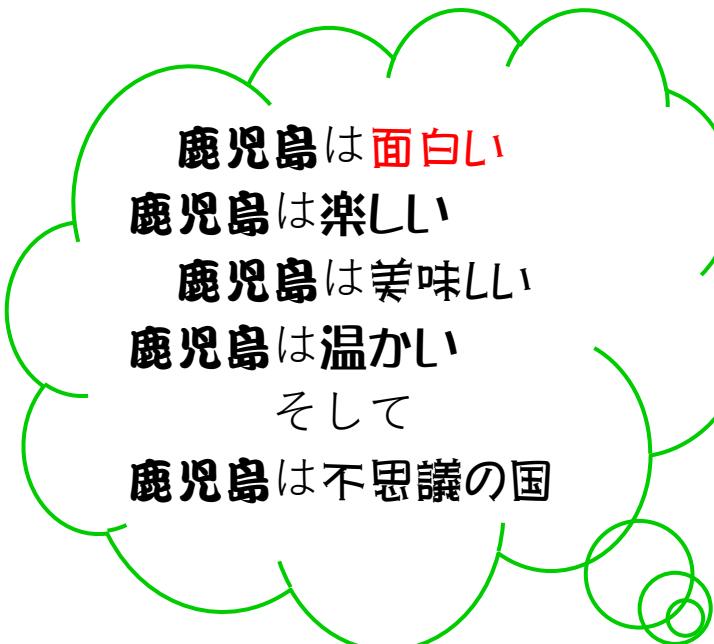


山田昌巣の碑
出水郷3代地頭、勤勉尚武・産業
振興など善政を敷いた。
「出水兵児修養塙」の基を作った。

出水麓武家屋敷にて
出水の由緒ある武家屋敷庭園で
ツアーオーのお客様一同



出水小学校の校門
出水に赴任する予定で島津義弘が
帖佐の屋敷の門を移築させたもの
義弘は着任することはありません
でしたが、その後地頭仮屋御門と
して受け継がれました。



ひとつべ

● 第十三号

「挨拶

令和七年もあとわずかとなり、一年が過ぎるのは早く感じてしまいます。今年の猛暑で農作物の被害が大きく、私たちの財布を縮め付けました。又、ワマの出没は地球の異変を予告しているのでしょうか。

今年も「歴史ツアー」「歴史よもやま話」「街歩き」にたくさんの方がご参加下さいました。来年も更に楽しいものにしてまいります。

この一年お世話になりました。

皆様よいお年をお迎えください。

発行者
NPO法人
かごしま新発見伝塾
〒890-0023
鹿児島市永吉3-19-17
ザ・ビューヒルズ208
Tel 099-800-1521
Mail info@kagoshima-shinhakken.net
<http://www.kagoshima-shinhakken.net>

豊臣秀吉と薩州家、国境を護つた出水兵児

い出し、両者の間に戦いが始まり、実久が加世田別府城に「じさん」というを急襲されて敗れ、出水に戻りました。

天文十四年(1545)貴久は近衛種家卿から衣冠束帶を与えられています。その後薩州家六代義虎は本家の十六代義久の長女於平と再婚し、三人の男子の父親となりました。於平との夫婦仲は大変良かつたと推測されます。

『入来院』
戦国島津四兄弟の義久・義弘・歳久の母親は入来院重聰の娘ですが、亡きあとは伊集院の雪窓院に葬られ、雪窓夫人と称されました。

十一月二十九日八時半、中央駅西口を満席にて出発。この日も快晴。国道3号線から328号線は戦国時代の歴史満載のルートです。

出水を治めた薩州家は島津八代久豊の一男用久を祖とし、出水・加世田・川辺を領有して、五代実久は姉を島津本家十四代勝久に嫁がせ、実力を蓄えていきました。時は下剋上の時代でした。一方島津分家の伊作家の忠良(日新公)も領地拡大に成功し、頭角を表していた時代に本家は凋落するばかり。

勝久は救いを忠良に求め、その子貴久を養子に迎え、清水城に入城させました。貴久十四才の時でした。それに激怒した実久は貴久を城から追



薩州家歴代当主の墓



秀吉の腰掛石

『薩州家とは』

十一月二十九日八時半、中央駅西口を満席にて出発。この日も快晴。国道3号線から328号線は戦国時代の歴史満載のルートです。

『薩州家の墓に眠る忠辰』
天正十五年(1587)豊臣秀吉が九州平定の為と称して、弟の秀長と共に乗り込んで来ました。秀吉は肥後から薩摩に入国し、薩州家の忠辰が迎えました。老練な秀吉は二十一才の忠辰に何を吹き込んだのか。程なく起きた朝鮮の役に出兵しますが、不審な行動で秀吉の怒りをかい改易され、その後朝鮮の加徳島で死を遂げます。忠辰の死の謎は解明されておらず。秀吉・島津本家・忠辰との間には秘密が隠されているように思えます。

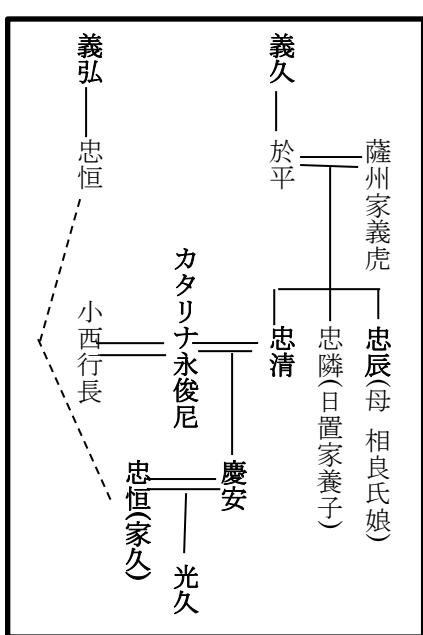
行程
中央駅 ==> 入来 ==> 薩州家墓地・山田昌嚴碑 ==> 出水麓武家屋敷(伊藤邸・秀吉腰掛石) ==> いわし茶屋(昼食) ==> 出水酒造(一五代沈壽官作品展示) ==> 野間の関 ==> 境川・境橋 ==> 特産館いすみ ==> 入来 ==> 中央駅

冠束帯を与えられています。その後薩州家六代義虎は本家の十六代義久の長女於平と再婚し、三人の男子の父親となりました。於平との夫婦仲は大変良かつたと推測されます。

『忠辰の異母弟忠清』
忠辰が朝鮮でなくなり薩州家は断絶となりました。そして異母弟たちは宇土城の小西行長に預けられ、成長していきます。行長はキリスト教名として有名ですが、この弟たちはキリスト教の影響は受けなかつたのでしょうか。

慶長五年(1600)関ヶ原の戦いで西軍についた行長は徳川家康に敗れ、敗走の途中捕えられ、京都六条河原で処刑されます。行長の葬儀はキリスト教で行われました。行長の妻は洗礼名カタリナという女性ですが、行長亡きあと成長して

いた忠辰の弟忠清と結婚するのです。そして二人の間に慶安という女子が誕生しますが、成長すると、島津初代藩主家久(忠恒)は側室として、一人の間に男子が誕生します。その子は長じて家久の後を継いで第一代藩主光久となります。また忠清は薩州家に嫁いだ島津十六代義久の長女於平が生んだ子供であり、家久は十七代義弘の子供です。光久は義久・義弘の血を受け継いだと同時にクリスチヤンの血も受け継いだというわけです。



カタリナは仏教への帰依を強要されたようですが、信仰心は強く、困つ果てた家久はカタリナを種子島に送りつけます。カタリナは種子島で生涯を終えますが、お墓には「カタリナ永俊尼」と刻まれており、墓石は山川石で作られています。

《野間の関址》

関ヶ原の戦いの後、薩摩は肥後の国境を厳重に見張る為、関所を設けました。「野間の関」です。

「口一ひとつせ、肥後の加藤が来るなりば、煙硝着に因予会釈。」(ひとせ、それでもきかずに来るなりば、首に刀の出物)と題わせ、「つひども來」)といふ氣概を見せました。一方肥後を治める加藤清正は熊本城を築き、「武者返し」「ねずみ返し」と呼ばれ、ねずみも登れない程と言われます。江戸時代この関所で留められた人は高山彦九郎、坂本竜馬、僧印照などおり、こんな人まで…とびっくりします。



厳いで有名な野間の関

肥薩国境・境川境橋

カタリナは仏教への帰依を強要されたようですが、信仰心は強く、困つ果てた家久はカタリナを種子島に送りつけます。カタリナは種子島で生涯を終えますが、お墓には「カタリナ永俊尼」と刻まれており、墓石は山川石で作られています。

《境川・境橋》

野間の関址から北へ10分程(5km)行くと境川があります。ここが薩摩と肥後の国境。東西に流れれる川は「口」川と石が積み重なって、江戸時代を彷彿とさせます。当時は橋はなかつたわけですが、明治になつて石橋が架けられ、今は自由に通れます。橋のすぐ上を肥薩おれんじ鉄道が通り、古い時代と現代が融合した場所でもあります。



出水兵児修養捉
士八節義を嗜み申すべく候。嗜みと申すものには口に偽りを言へず身に私を構へず、心直にして作法乱れず、礼儀正しくして上に詔らへず下を侮りか人の患難を見捨てず、己が約諾を違えず、甲斐かいしく頼母しひ、苟且にも下様の賤しき物語り悪口など詔の端にも出せぬ、
恥を知りて首刎ねりぬ」とも、己が為すまじき事をせず、死すべき場を一足も汚かず、其心鐵石の如く、又温和慈愛にして、物の哀れを知り人に情あるを以て節義の嗜みと申すもの也。

戦国時代を生きた宰相夫人(実窓夫人)

戦国武将の島津義弘は三回結婚しています。

最初の妻は永禄三年(1560)日州飫肥の伊東氏と対峙していた時、北郷忠孝の娘と結婚し、長女御屋地を儲けています。一番目の妻は肥後人吉の相良氏の娘といわれます。どちらとも双方のお家の事情で結婚したと思われます。この妻はじきに帰されています。

そして三番目の妻が宰相夫人といわれ、今の鹿児島市小野町の園田清左衛門の娘です。小さな川で大根を洗っている女の子に「うんまかそくな大根じゃ」と声をかけたのがきっかけなのだとか。

義弘は永禄七年(1564)日州真幸院(アビ)に移り、一十六年間住み、宰相夫人との間に五男一女をもつけています。戦国時代は戦いに明け暮れ、女性は子供を産んでも明日の命の保障もないまま不安な日々を送っていたのではないでしょうか。宰相夫人は長男、一男、四男、五男をしくし、男子で只一人残ったのが三男忠恒(家久)だけでした。そして「お下」と云ふ女房も伊集院忠真に嫁りますが、忠真は乱を起し家久に殺され、その一族も皆殺しにされるという悲惨な運命をたどります。

戦国時代とは云え宰相夫人の心は深く傷つき、計り知れない闇の中に沈んでいたに違ありません。そんな妻に義弘はせつせつと手紙を出し続いたのでした。

歴史よもやま話 本年8月以降

| | | |
|----------|-----------------|---------|
| R7/08/28 | 92回黒豚の歴史 | 講師 今井俊子 |
| 09/25 | 93回「からいもは世界」を救う | 講師 今井俊子 |
| 10/23 | 94回肥薩国境を越えて | 講師 今井俊子 |
| 11/27 | 95回大河ドラマ豊臣兄弟の前に | 講師 今井俊子 |



大隅国府跡
国分祓戸神社前に下記の碑
713年大隅国が建国され、
国府が置かれました。
来年3月ツアーで探検しま



街歩き 本年8月以降

| | | |
|----------|------------------|------|
| R7/09/18 | 90回西郷さんをしのんで | 今井俊子 |
| 10/09 | 91回旧鹿児島刑務所から小松別邸 | 今井俊子 |
| 11/06 | 92回水上坂から西郷家墓地 | 今井俊子 |
| 12/02 | 93回桐野利秋と南洲墓地 | 今井俊子 |

知るを楽しむバスツアー 本年8月以降

| | |
|----------|-----------------------|
| R7/10/04 | 阿多カルデラとジオでわかる指宿の歴史 |
| 11/29 | 豊臣秀吉と薩摩家そして国境を護った出水兵児 |

編集後記

本性でしょうか、毎度付焼き刃で変わり映えしません。早くから準備しないといけません。時間はたっぷりあるのですから。

編集責任者 今井征男

2026年度の事業カレンダー

12/20(土)現在の予定表です。変更になる場合があります

| 回 | 月 | 日 | 曜 | カテゴリ | テーマ |
|---|----|----|---|--------------|----------------------------|
| 歴史よもやま話 10:00~11:40 会場 市福祉プラザ 4F 小会議室 資料代 200円 要予約 27名限定 | | | | | |
| 前年度 | 1 | 22 | 木 | 96回歴史よもやま話 | 島津登志子氏講座～島津忠義邸へ行幸啓の一考察 |
| 前年度 | 2 | 26 | 木 | 97回歴史よもやま話 | 臼杵公・貴久公と四兄弟 |
| 前年度 | 3 | 26 | 木 | 98回歴史よもやま話 | 四兄弟と三州統一 |
| 1 | 4 | 23 | 木 | 99回歴史よもやま話 | 家久上京と信長・光秀、石見銀山 |
| 2 | 5 | 28 | 木 | 100回歴史よもやま話 | 九州制覇に挑む四兄弟 |
| 3 | 6 | 25 | 木 | 101回歴史よもやま話 | 豊臣兄弟と島津四兄弟 |
| 4 | 7 | 23 | 木 | 102回歴史よもやま話 | 朝鮮の役と薩摩の若者たち、そして伊集院忠棟 |
| 5 | 8 | 27 | 木 | 103回歴史よもやま話 | 関ヶ原の戦い |
| 6 | 9 | 17 | 木 | 104回歴史よもやま話 | 島津家の家督争い |
| 7 | 10 | 22 | 木 | 105回歴史よもやま話 | 義弘の晩年と関ヶ原後臼杵談、妙円寺参りの歌 |
| 8 | 11 | 26 | 木 | 106回歴史よもやま話 | 来年は西郷生誕200年・没後150年 |
| 街歩き 10:00~12:30 会費 1,000円(資料代、保険代含む) 2日前までに要予約 15名限定 | | | | | |
| 前年度 | 3 | 19 | 木 | 第94回街歩き | 加治屋町から高麗橋・武之橋巡り |
| 1 | 4 | 23 | 木 | 第95回街歩き | 山川石のお墓・島津本家菩提寺福昌寺跡巡り |
| 2 | 5 | 14 | 木 | 第96回街歩き | 三方限(上之園・高麗・荒田)と松方正義巡り |
| 3 | 9 | 17 | 木 | 第97回街歩き | 西南戦争と西郷＝城山・終焉の地・私学校跡・銅像 |
| 4 | 10 | 22 | 木 | 第98回街歩き | 島津重豪が造った天文館・金生町 |
| 5 | 12 | 2 | 火 | 第99回街歩き | 桐野利秋と南洲墓地の若者たち |
| バスツアー | | | | | |
| 前年度 | 1 | 17 | 土 | 原口泉教授の野外歴史教室 | 志布志の繁栄の謎解き歴史と港湾コンビナート |
| 前年度 | 3 | 21 | 土 | 国分・古代 | 古事記・日本書紀から国分の古~い神社と.... |
| 1 | 4 | 25 | 土 | 戦国島津氏・えびの | 義弘と愛妻とのえびのの26年間、満開のキリシマツツジ |